



「際どい球は、
あえて見送れ。」

「『触らない勇気』こそが、最強のコート感覚を育てる。」





かつての常識：迷ったら、打て。

恐怖心：「インだったらどうするんだ」
という恐怖心に基づいたプレー。

後悔：後悔するくらいなら打っていく。

結果：触ってミスする可能性が高い。

現代の最適解：迷ったら、見よ。

情報収集：見送ることで情報を得る。

戦略的放置：相手にプレッシャーを与えるための意図的なアクション。

心理的圧力：見送る行為そのものが武器になる。

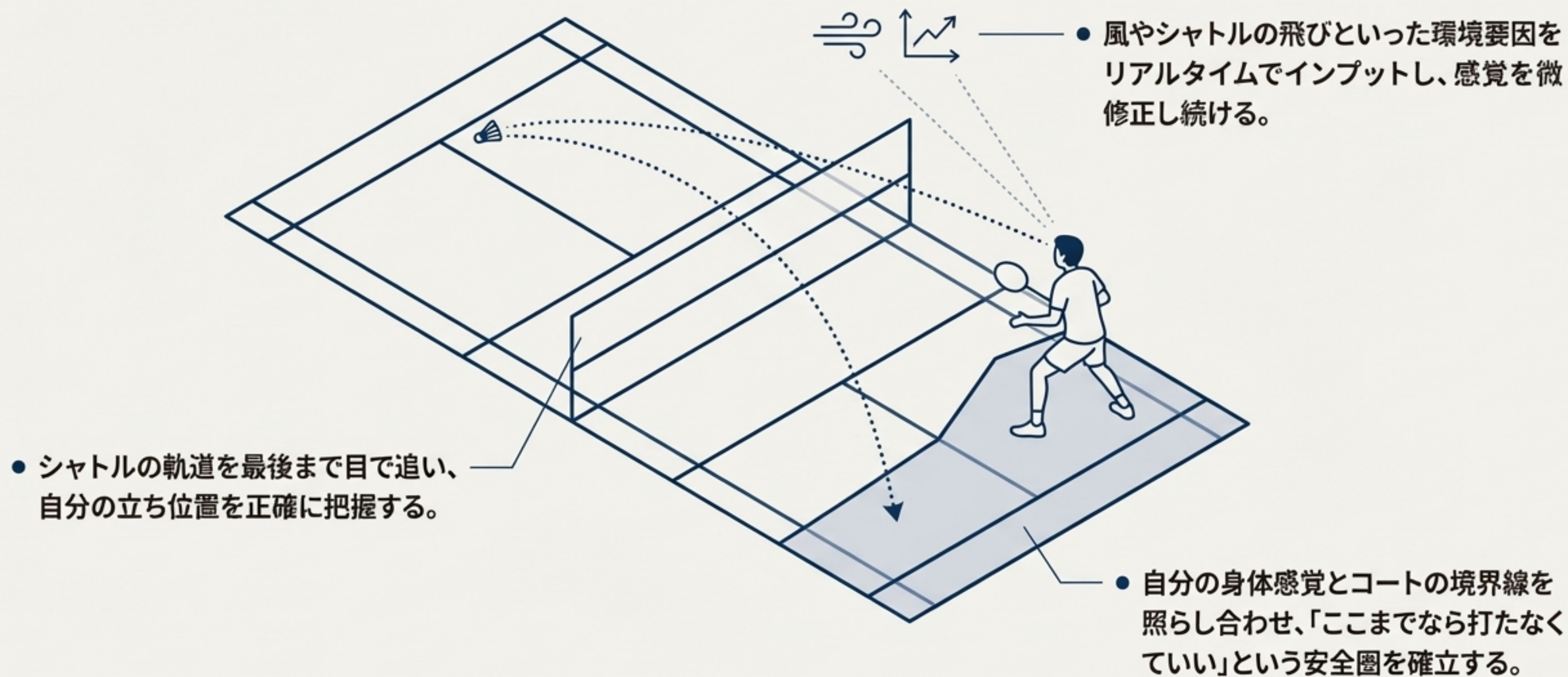


見送ることで、空間を支配する。



最強の「コート感覚」
(空間認識能力)

「コート感覚」を養うプロセス



「境界を知る者が、コートを制する。」

もし、見送ってイン(IN)だったら？



「それでも構わない。」

むしろ、それが『効く』。

逆転の発想：相手の「脳」を疲弊させる心理戦



① 唯一の例外

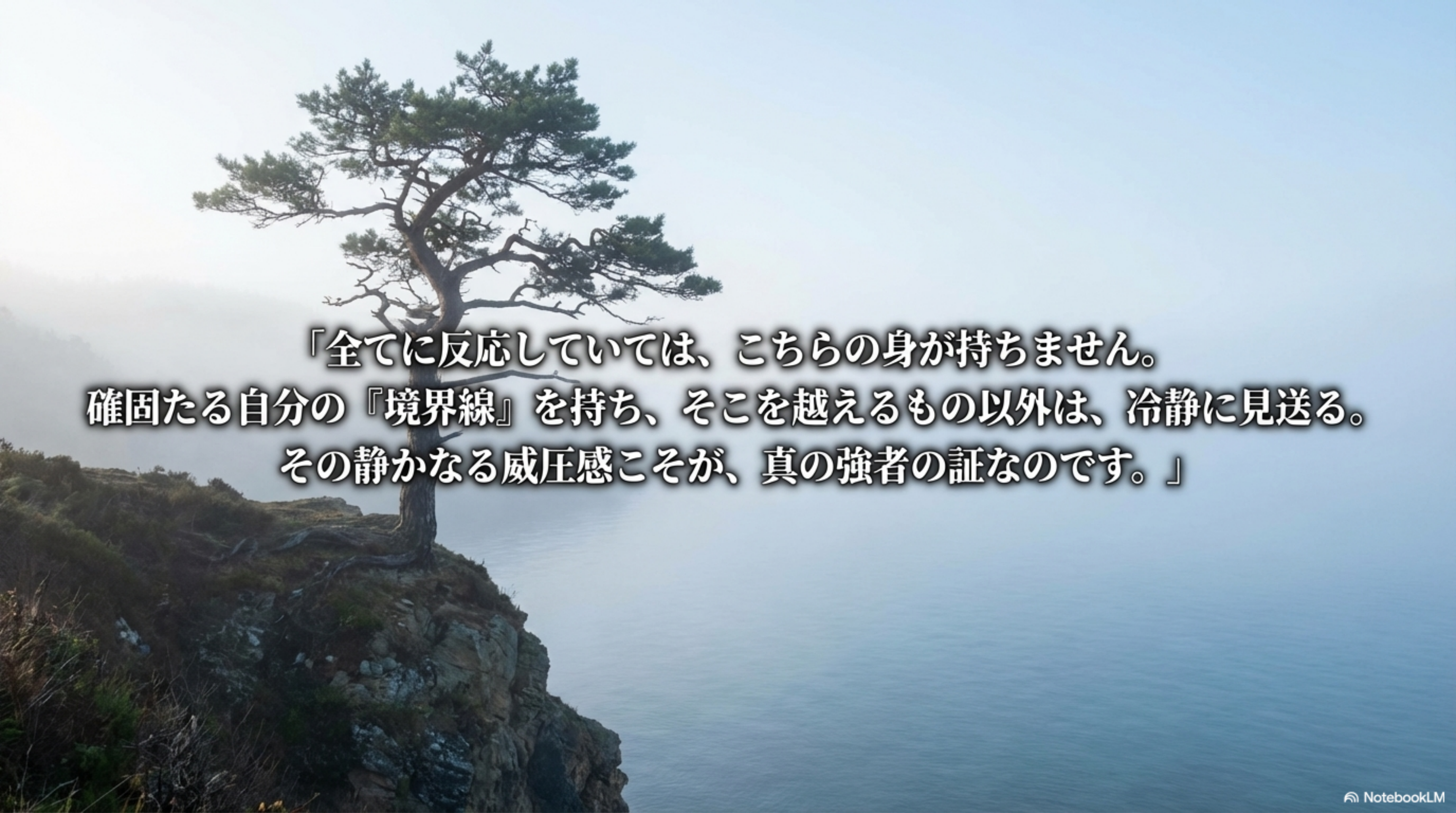
「大接戦のファイナルゲーム、29-29のような最終局面だけは別です。そこで運に頼るのはリスクが高すぎます。」

「しかし、それ以外の場面では、積極的に『ウォッチ』を行い、相も手に心理的圧力をかけていきましょう。」

これは、究極の
「スルー力」である。

This skill is not just about badminton. It is about 「反応しないことによる支配」 (dominance through non-reaction). It's about trading a single point to plant a seed of doubt in your opponent's mind.



A lone, gnarled pine tree stands on a rocky cliff edge, its branches reaching out over a vast, calm ocean. The sky is a pale, hazy blue, and the water reflects the light, creating a serene and contemplative atmosphere. The tree's trunk is thick and twisted, showing signs of age and resilience.

「全てに反応しては、こちらの身が持ちません。
確固たる自分の『境界線』を持ち、そこを越えるもの以外は、冷静に見送る。
その静かなる威圧感こそが、真の強者の証なのです。」

さあ、次の練習で
試そう。

「勇気を持ってラケットを
下ろし、シャトルの行方を
『凝視』してみませんか？」



脳と身体をリンクさせる、その先へ。

Phoenix-Aichiでは、こうした高度な指導をオンラインで配信しています。

PHOENIX愛知のオンライン指導で、さらなる高みへ。

[公式ページをチェックする](#)



www.phoenix-aichi-badminton.com

TEL. 080-6910-0479

